

アジアで会う *Talking in Asia*



井上学さん CBS グループ代表

第23回 慈善活動がつなぐ人との結び付き(ベトナム)

いのうえ・まなぶ 兵庫県神戸市生まれ。大阪大学工学部卒業。ミノルタ(現コニカミノルタ)入社後、オートフォーカス一眼レフカメラ「α7000」の開発に携わる。1998 年、建設仮設機材のレンタルを手掛ける姫建機材の創業社長である父親が急逝し、銀行や社員代表からの要請で、同社の社長に就任。2005 年に設計会社 CBS ベトナムを設立し、建設・機械設計や日系企業向けのコンサルティングなどを行っている。姫建機材や CBS ベトナムで構成する CBS グループの代表を務める。「ベトナムでビジネスを行う上で現地語での円滑なコミュニケーションは必須」と休日はベトナム語レッスンを欠かさない。趣味は「街歩き」や水泳。

児たちの共同生活小屋があったが、想像以上に劣悪な環境に驚いた。子どもたちに施設の改善を約束したことが、その後ベトナムに深く関わるきっかけとなった。



奈良県五條市に本店を置く森岡組という地下トンネル工事会社が今年 6 月にホーチミン市から上水道管の敷設工事を受注した。ベトナムで日本の建設会社が工事を受注する場合、政府開発援助(ODA)案件の大型インフラプロジェクトや日系企業の工場建設などが中心。いずれも大手ゼネコンの受注が多く、資金力や実績の乏しい地方の中小建設会社が参入する余地は少ない。そうした中、森岡組の案件は地方の中小企業がベトナムの自治体から初めて受注した例として注目される。

森岡組は、井上さんが代表を務める CBS グループ(大阪市淀川区)が 2010 年に立ち上げた「中小建設企業のベトナム進出プロジェクト」のメンバー。プロジェクトは、日本国内における建設市場の先細りが予測される中で、中小建設会社などが持つ優れた土木技術をベトナムで活用することを目的に設立された。

プロジェクトで中心的な役割を果たす井上さんは、10 年以上にわたってベトナムにコミットしてきた。中小企業のベトナム進出といっても、商慣行をはじめ、日本とは全く環境の異なる市場への進出は言葉で言うほど簡単ではない。「これまでの積み重ねがようやく形になった」。言葉に実感がこもる。プロジェクトのメンバーには、ほかに基礎工事や港湾土木、建築設計といった専門技術を持った合計 14 社が名を連ねる。森岡組の受注は、他のメンバー企業にとってもベトナム進出の大きな弾みになると期待を示す。

障害孤児との約束から始まった関わり

「ベトナムで仕事をしようと思ったら、ベトナム人とビジネス上のつきあいだけでは足りない」。井上さんは人脈作りの重要性を強調する。犯罪や非行に陥った人の更生を任務とする保護司を日本で務める井上さん。ベトナムでも障害者向けの授産施設への出資や地方における無料診療といった慈善活動に積極的に関わっている。ベトナムでは、富裕層や政府高官などが慈善活動に携わるケースが多く、こうした活動を通じて得た人脈が仕事上でも大いに役立っているという。

井上さんが初めてベトナムを訪れたのは 2001 年。観光旅行だったが日本からの機内で、ベトナムで車いすが不足していることを伝えた新聞記事を見て、そうした福祉施設も何力所か見学してみようと思い立った。その中には障害孤

目標は 500 人規模の技術集団

井上さんが社長に就任した当時の姫建機材は、社内に少人数の設計者を抱えていた。建設業界が低迷する中で、一つの会社が設計者を抱えることはコストがかさむ上、小規模であるため人材育成やノウハウの蓄積でも限界があった。このため、関西の同業数社で設計部隊を一カ所に固め、より大きな組織にして運営することで検討を始めた。専門が電子工学で設計に明るい井上さんがその取りまとめに指名された。

日本で設計を行うことは、そのほとんどが人件費である業務として、採算が難しいことから、ベトナムで親しくなっていたベトナム人に相談し、地場設計会社との合弁会社 CBS ベトナムを 05 年に設立(現在は合弁を解消し、姫建機材の独資会社)。当初は建設設計のみだったが、CAD(コンピューター支援設計)設計会社は当時珍しく、日系の銀行の紹介を通じて、三菱重工グループの高菱エンジニアリング(現三菱日立パワーシステムズエンジニアリング)から機械設計の依頼があった。未経験の分野ではあったが、顧客はその仕上がりに満足し、機械設計を本格的に始めるきっかけとなった。

現在、70 人余りの体制に成長した CBS ベトナム。ホーチミン工科大学と共同で建築専門学校を運営するなどベトナム人の人材育成にも力を入れている。井上さんは、「技術集団という切り口で社内技術をさらに高め、近い将来に 300~500 人の規模を持つ集団として、技術分野においてベトナムに貢献していきたい」と抱負を語った。(ベトナム編集部・須賀毅)